

誰もが何らかの関心を見つけられる国

米国を訪れる毎年数百万人の観光客は、米国の国土は広く、有名な観光地と観光地の間は何千マイルも離れていることにすぐ気がつきます。1回の訪問で、あるいはたとえ数回訪れても、すべてを見るのは不可能です。ですから、事前の計画が不可欠です。

国営の観光局はありませんが、米国旅行産業協会(<http://www.seeamerica.org>)やそれぞれの州が、お勧めの観光地や、レクリエーションに関する情報を幅広く提供しています(<http://www.statelocalgov.net/50states-tourism.cfm>)。旅行代理店、ロードサービス団体、ホテル、その他の企業も観光情報を提供しており、インターネット上にウェブサイトが置かれていることもあります。

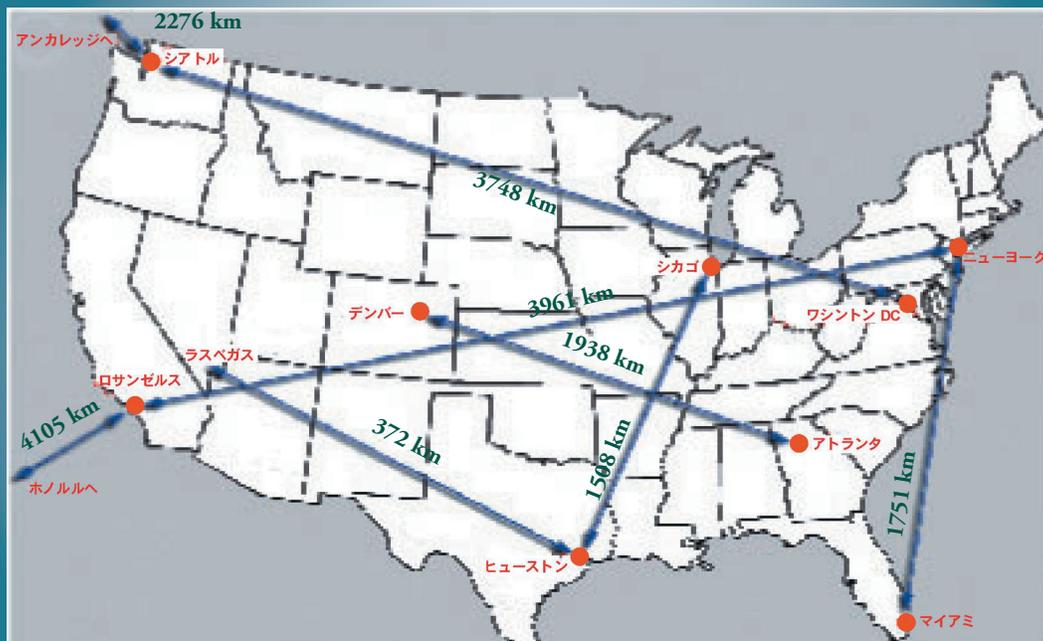
休日の過ごし方はさまざまです。例えば、フロリダ州のマイアミやカリフォルニア州のサンフランシスコのような1つの都市とその近郊に落ち着いて過ごすか、あるいは、ニューイングランドや中西部北部の五大湖のような特定の地域を見て回るか、またはワイオミング州のグランドテトン国立公園やミズーリ州のオザーク国立風致河川区など、特定の観光地に滞在するか、などいろいろな方法があります。

次の2つの小論では、さらに別の休日の過ごし方を提案します。ピアニストであり、数々の賞を受賞した音楽史専門家のジョン・エドワード・ハッセ博士が、米国の音楽遺産を巡る旅を提案します。それに続き、フェア、農場、ブドウ園、歴史の再現、米国特有のちょっと変わった楽しみ、スポーツイベントなど、その他の観光の選択肢をフォトストーリーで紹介します。

米国は国民も地理も多様なので、誰もが何らかの関心を見つけることができます。

好き嫌いはいずれあるでしょうが、何か興味を引くことがきっと見つかります。どこに行こうと、率直で、心の広い、温かなもてなしの心をもつ人々に出会えます。

広大な国、米国



米国は大きな国です。米国旅行を計画するときは、人気の高い観光地の多くはそれぞれ遠く離れていることに配慮してください。この地図は、主要都市の間の直線距離をキロメートル単位で示しています。車で移動するルートだと、これよりかなり長くなるでしょう。

米国の音楽ツアー

ジョン・エドワード・ハッセ博士
国立アメリカ歴史博物館米国音楽学芸員

米国訪問では、大都市を訪ね歩く、国立公園をハイキングする、有名な記念碑を見学する、などいろいろな計画を立てることが出来ます。この小論でジョン・ハッセ博士は、さらにユニークな方法を提案してくれます。それは、国内のどの地域にもある、さまざまな音楽の殿堂を訪ねることにより、米国を探訪するというものです。

米国を1度も訪れたことのない人たちでも、米国の音楽には親しんでいると思います。米国は、国家としての230年近い歴史を通じて、膨大な量の独創的な音楽を生み出してきました。その多様性、活力、創造性、そして芸術性には、驚異的なものがあります。とても素朴なバンジョー音楽や田舎のダンスから、心に残るロバート・ジョンソンのブルースや、チャーリー・パーカーの鮮やかで見事なジャズの技巧まで、米国の音楽は、米国が世界の文化に対して行った最大の貢献のひとつです。

これまでに、米国ほど活気に満ちた影響力のある音楽様式を豊富に生み出した国はほかにない、と言っていいと思います。米国の音楽は、米国民のエネルギー、多様性、精神、そして創造性を反映しています。英語が分からない人でも、アレサ・フランクリンの声のパワー、ハンク・ウィリアムズの哀愁、ルイ・アームストロングが振りまく「生きる喜び」、ジョニー・キャッシュの率直さ、エラ・フィッツジェラルドの妙技、そしてエルビス・プレスリーのエネルギーなどを理解することができます。

このようなミュージシャンの音楽は、レコード、テープやCD、音楽ダウンロード、インターネットラジオ、ボイス・オブ・アメリカ(VOA)放送、テレビ、ビデオなどで世界中の人々が聴くことができます。しかし、こうした音楽を本当に理解するためには、その音楽が生まれ、進化し、保存されている土地を訪れるのが一番なのです。

本稿では、米国各地にある音楽博物館や殿堂を概観して、ほかにはないような米国ツアーを旅行者に提案します。ただし、サルサやマリアッチのように、比較的新しい移民によって持ち込まれた音楽の伝統や、グランジ、ラップ、ヒップホップのような近年米国で発生した音楽様式の場合は、まだ専門の博物館や史跡がないものもあります。しかし、そうした音楽も、ナイトクラブやフ

ェスティバルで聞くことができますし、ワールドワイド・ウェブを検索することによって、容易に探し出すことができます。ナイトクラブは目がまわるような速さで開店したり閉店したりしており、フェスティバルも次から次へと絶えず新しいものが生まれているので、ここでは、今後長期にわたって存続する可能性の高いものを、重点的に取り上げてみました。

ジャズ 米国で生まれた、最も重要で強い影響力を持つ、革新的な音楽です。ルイジアナ州ニューオーリンズが、その発祥の地として広く知られています。おそらくニューヨーク市を唯一の例外として、ニューオーリンズほどジャズ愛好家が多く訪れる町はないと思われます。しかし、不幸なことに2005年8月29日にハリケーン・カトリーナが上陸して、クレセントシティー(ニューオーリンズのアリネ)が壊滅的な打撃を受けたため、世界のジャズ愛好家たちにとっては、ニューオーリンズの復興に関するニュースに注意を払う日々が続くそうです。



AP/WWP Photo by Jennifer Szymaszek
トランペットを演奏する巨匠ウィントン・マーサリス。彼は、ジャズ・アット・リンカーンセンターの芸術監督でもあります

ニューオーリンズの住民とジャズ愛好家は、フレンチクォーターとプリザベーションホールの再開を心待ちにし

ています。プリザベーションホール(<http://www.preservationhall.com>)は、飾り気のない木造の2部屋の建物で、1961年以来、伝統的なニューオーリンズ・サウンドの殿堂のような存在になっています。このほかにも、水害からの復活を待たねばならないニューオーリンズの名所には、ルイ・アームストロングやビックス・バスターフィールドなど初期のジャズの大家が演奏した楽器が展示されているルイジアナ州立博物館のジャズ展示室(<http://lsm.crt.state.la.us/site/>)や、ガイドなしウォーキングツアーやその他の案内サービスの再開が待たれる、ノースピーターズ・ストリートのニューオーリンズ・ジャズ国立歴史公園観光案内所(<http://www.nps.gov/jazz>)などがあります。

1920年代および1930年代には、ミズーリ州カンザスシティがジャズを中心地であり、カウント・ベイシー、チャーリー・パーカー、メアリー・ルー・ウィリアムズや、その他の偉大なジャズメンたちが、この町で演奏しました。18丁目とバイン・ストリートを中心とする旧ジャズ街には、アメリカ・ジャズ博物館(<http://www.americanjazzmuseum.com>)や歴史的なジェム劇場があり、これぞジャズ、という雰囲気浸ることが出来ます。



AP/WWP Photo by Amanda Bicknell
楽しそうに演奏するブルース・ギタリストのW・C・クラーク

ニューヨーク市では、ビレッジヴァンガード(<http://www.villagevanguard.net/frames.htm>)、ブルーノート(<http://www.bluenote.net>)、バードランド(<http://www.birdlandjazz.com>)など、市内各地の歴史的なナイトクラブで、あらゆる時代のジャズを聞くことができます。ハーレムのアポロシアター(<http://www.apollotheater.com>)や、57丁目と7番街の角にあるカーネギーホール(<http://www.carnegiehall.org>)では、数々の偉大なジャズ・アーティストが演奏してきました。ニューヨークで最も新しいジャズの殿堂は、総工費1億3000万ドルをかけて2004年10月にオープンした、ジャズ・アット・リンカーンセンター(<http://www.jazzatlincolncenter.org>)です。ここには、1200人収容のコンサートホールのほかに、セントラルパークを見下ろす素晴らしい眺めのホール(400人収容)、そして140人収容のナイトクラブ「ディーズクラブ・コカ・コーラ」があります。

クイーンズ地区には、米国のジャズ・ミュージシャンの中で最も影響力が強かった「サッチモ」ことルイ・アームストロング(1901~71年)の家、ルイ・アームストロング・ハウス(<http://www.satchmo.net>)があり、ツアーや小さなギフトショップもあります。

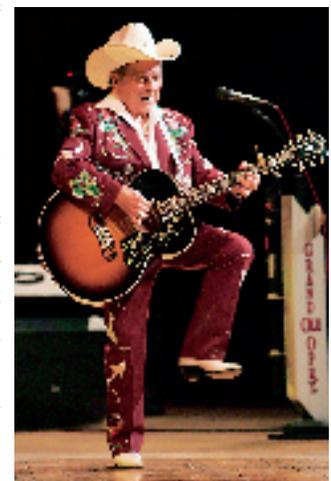
ラグタイム シンコペーションを多用した独特のピアノ音楽で、ジャズのルーツのひとつです。「ラグタイム作曲家の王様」と言われるスコット・ジョプリンの作品が、ミズーリ州セダリア市のステートフェア・コミュニティーカレッジに展示されています。ジョプリンは、セダリアで、有名な「メープルリーフ・ラグ」を作曲しました。ここでは毎年、スコット・ジョプリン・ラグタイム・フェスティバルが開催されています。またセダリアよりかなり規模が大きい都市であるセントルイス市には、州の史跡となっているスコット・ジョプリン・ハウス(<http://www.mostateparks.com/scottjoplin.htm>)があります。

ブルース 12小節で構成されるブルースは、米国で生まれた唯一の音楽形式と言えます。そして、一般に、ミシシッピ州がブルース発祥の地とされています。確かにミシシッピ州は、チャーリー・パットン、ロバート・ジョンソン、ハウリン・ウルフ、マディ・ウォーターズ、B・B・キングなど、偉大なブルース・ミュージシャンを多数輩出しており、その大半は、テネシー州メンフィス市から、南のミシシッピ州ビックスバーク市まで320キロメートルにわたって続く、ミシシッピ・デルタと呼ばれる広大なはんらん原地帯の出身です。ミシシッピ州のこの地域には、クラークスデール市のデルタブルース博物館(<http://www.deltabluesmuseum.org>)、

ロビンソンビル市のブルースと伝説の殿堂博物館(<http://www.bluesmuseum.org>)、そしてリーランド市のハイウエイ61ブルース博物館(<http://www.highway61blues.com>)という、中規模の3つのブルース博物館が自慢の種です。

高速道路61号線(ハイウエイ61)は、ブルースハイウエイとも言うべき道路で、ブルースミュージシャンたちは、この道路を通してミシシッピ州から北のテネシー州メンフィスに向かいました。メンフィスには、「セントルイスブルース」や「メンフィスブルース」を作曲したW・C・ハンディーの彫像が、有名なビールストリート(<http://www.bealestreet.com>)に建っています。また、B・B・キングのブルースクラブ(<http://www.bbkingclubs.com>)があるのも、ここメンフィスです。

ブルーグラスミュージック シンコペーションを使った、弦楽器バンドによる音楽で、米国東部アパラチア山脈の辺りな丘陵地帯や盆地で生まれましたが、都会の人たちの間でも愛好されるようになりました。ケンタッキー州オーウェンズボロ市に国際ブルーグラスミュージック博物館(<http://www.bluegrass-museum.org>)があるほか、これより規模は小さいものの、インディアナ州ビーンブロッサム市に、ビル・モンローのブルーグラスの殿堂(<http://www.beanblossom.com>)があります。バージニア州では、州南西部の景観地帯の400キロメートルに及ぶ道路が、「クルキッド・ロードーバージニア・ミュージック・ヘリテージ・トレール(曲がりくねった道ーバージニアの音楽遺産の道)」(<http://www.thecrookedroad.org/>)と新たに指定されました。このルート沿



AP/WWP Photo by John Russell
リトル・ジミー・ディケンズは、グランド・オール・オプリーの伝説の奏者の1人です

いに、ラルフ・スタンリー博物館、カーター・ファミリー・ワールド、ブルーリッジ・ミュージック・センター、そしてカントリーミュージック生誕の地博物館などの名所があります。

カントリーミュージック テネシー州ナッシュビル市は、長年にわたってカントリーミュージックの中心地となっており、有名なグランド・オール・オプリー (<http://www.opry.com>)や、素晴らしいカントリーミュージックの殿堂 (<http://www.countrymusicHalloffame.com>)などがあります。グランド・オール・オプリーでは、史上最長寿のラジオ生放送番組が今も収録されており、毎週金曜と土曜の夜にはさまざまなカントリーミュージックが演奏されます。カントリーミュージックの殿堂の常設展示「シング・ミー・バック・ホームカントリーミュージックの歴史の旅」では、カントリーミュージックの歴史を物語る衣装、記念品、楽器、写真、原稿などの豊富なコレクションを見ることができます。

その近くには、エルビス・プレスリーやチェット・アトキンズなどのスターがレコーディングをしたRCAスタジオB、またカントリーのトップスターのポスターを制作してきた、米国最古の活版印刷所のひとつであるハッチ・ショー・プリントもあります。



AP/WWP Photo
1973年当時のエルビス・プレスリーの公演風景

このほか、ナッシュビルには、当初グランド・オール・オプリーのラジオ番組収録が行われていたライマン公会堂 (<http://www.ryman.com>)や、有望な新進ソングライターの活躍の場として全米でも有名なブルーバードカフェ (<http://www.bluebirdcafe.com>)をはじめとする、数々のナイトスポットがあります。ミシシッピ州メリデ

イアン市のジミー・ロジャーズ博物館 (<http://www.jimmierodgers.com>)では、カントリーミュージックの元祖の1人であるジミー・ロジャーズをたたえる展示を見ることができます。

ロック、リズム&ブルース、ソウル ロックンロールは、米国と世界を揺り動かし、誕生から50年以上を経た現在も、世界中の何億人もの人々を魅了し、しびれさせています。テネシー州メンフィスには、エルビス・プレスリーの、俗っぽいけれども面白い邸宅、グレースランド (<http://www.elvis.com>)があります。また、プレスリーが初めてレコーディングをし、その後も著名なミュージシャンたちがレコーディングに使ったサン・スタジオ (<http://www.sunstudio.com>)や、スタックス、ハイ、アトランティックの各レコード会社、そしてメンフィスやマッスル・ショールズの音楽をテーマとするスタックス・アメリカン・ソウル博物館 (<http://www.staxmuseum.com>)などもあります。

メンフィス・ロック・アンド・ソウル博物館 (<http://www.memphisrocknsoul.org>)では、1920年代から1980年代までのメンフィスの歴史を、W・C・ハンディーからエルビス、ブッカーティナー・アンド・ザ・エムジーズに至る、ブルース、ロック、ソウルの音楽で振り返る、スミソニアンの見事な展示が見られます。

メンフィス・ロック・アンド・ソウル博物館 (<http://www.memphisrocknsoul.org>)では、1920年代から1980年代までのメンフィスの歴史を、W・C・ハンディーからエルビス、ブッカーティナー・アンド・ザ・エムジーズに至る、ブルース、ロック、ソウルの音楽で振り返る、スミソニアンの見事な展示が見られます。

ミシガン州デトロイト市のモータウン歴史博物館 (<http://www.motownmuseum.com>)には、シュプリームズ、テンプテーション



AP/WWP Photo by Edward Stapel

ニューポート・フォーク・フェスティバルで歌うエミルー・ハリス

ズ、スティービー・ワンダー、マービン・ゲイ、アレサ・フランクリンをはじめ、モータウン・レコードでレコーディングしたソウルシンガーの思い出の品々が展示されています。

バディー・ホリーの熱狂的なファンには、テキサス州ラボック市のバディ・ホリー・センター (<http://www.buddyhollycenter.org>)も見逃せません。

オハイオ州クリーブランド市の「ロックンロールの殿堂」 (<http://www.rockhall.com>)は、著名な中国系米国人建築家I・M・ペイの設計した目を見張るような素晴らしい建物に、ロックンロール関係の展示品やオーディオ・ビジュアルのサンプルを多数収めた、巨大な施設です。また、ワシントン州シアトル市のエクスペリエンス・ミュージック・プロジェクト (<http://www.emplive.org>)は、フランク・ゲリーが建物を設計した、ユニークなインタラクティブ（双方向型）博物館で、ポピュラー音楽とロックをテーマにしています。

フォークミュージック 世界中のほぼどの国にも、その国固有の音楽があり、ヨーロッパや米国では、しばしば「フォークミュージック」と呼ばれます。フォークミュージックは、人から人へと口

承されます。つまり、楽譜を使わずに耳で伝えるのです。フォークの歌や器楽曲の起源は、おおむね謎に包まれていて、また演奏する人の耳、声、指、感性によって、同じ曲でもバリエーションがいくつも生まれます。フォークミュージックの生演奏を楽しむ最も手軽な方法は、米国各地で開かれるさまざまなフォークミュージック・フェスティバルに足を運ぶことです。中でも最も大規模なフェスティバルは、ワシントンD.C.のナショナルモールで毎年6月と7月に開かれるスミソニアン・フォークライフ・フェスティバル(<http://www.folklife.si.edu>)です。2006年には、40回目を迎えます。

ラテン音楽 言うまでもなく、米国は、移民から成る「新世界」の国です。米国にやってくる新しい民族グループは、それぞれの伝統音楽を持ち込み、それが異国の地で根を下ろす際に、必然的に変化し、進化を続けます。現在、米国の最大の少数民族グループはヒスパニックであり、彼らは数々の音楽的伝統を実践しています。

トランペット、バイオリン、ギター、ビウエラ、そしてギタロンのアンサンブルで演奏するメキシコのマリアッチは、米国西部のさまざまな場所で聞くことができます。ロサンゼルス市のウィルシャー・ブルバード2501番地にある「ラ・フォンダ・デ・ロス・カンペロス」は、1969年にマリアッチ・ディナー・シアターの先駆けとなったレストランで、マリアッチの殿堂に最も近い存在です。バンドリーダー兼バイオリン奏者のナティ・カーノは、民族・伝統芸術の米国政府が授与する最高峰の賞を受賞しています。彼が生んだマリアッチ・ディナー・シアターのアイデア



AP/WWP Photo by JPat Carter
ニューオーリンズ・ジャズ・アンド・ヘリテージ・フェスティバルで演奏するザイデコ・ニューブリード・バンドのJ・ポール・ジュニア



AP/WWP Photo by Reed Saxon
オハイオ州クリーブランドの「ロックンロールの殿堂」

は、アリゾナ州トゥーソン、ニューメキシコ州サンタフェ、テキサス州サンアントニオなどの各都市にも広がっています。

活気のあるダンス音楽サルサは、キューバやプエルトリコからの移民がニューヨーク市にもたらしたもので、ニューヨークやマイアミのような国際色豊かな都市のナイトクラブで演奏され、人々が音楽に合わせて踊っています。ワシントンD.C.のスミソニアン国立アメリカ歴史博物館で2005年に開

催された「アズカー！ セリア・クルスの人生と音楽」という展示は、キャリアの大半を米国で過ごしたサルサの女王を紹介するものです。展示内容はインターネット(<http://www.americanhistory.si.edu/celiacruz/>)で見ることができます。

ケイジャン音楽 ルイジアナ州ユーニス市(ニューオーリンズから車で西へ約3時間)のプレーリー・アカディアン文化センター(<http://www.nps.gov/jela/pphtml/facilities.html>)では、1750年代にカナダを追放されて移住してきたアカディア人(ケイジャン・フランス系カナダ人)の歴史と、独自のフランス語の音楽と文化を学ぶことができます。また、近くにあるリパティエ劇場では、ケイジャンやザイデコ(黒人ダンス音楽)のバンド、一幕のミュージカル、ケイジャンのユーモア作家が登場する2時間のラジオ番組「ケイジャンとのランデブー」の生放送が、毎週土曜日に行われています。このほか、ユーニスには「ケイジャン音楽の殿堂」(<http://www.cajunfrenchmusic.org>)があり、またルイジアナ州立大学ユーニス校は、現代のクレオール、ザイデコ、およびケイジャンのミュージシャンを紹介するウェブサイト(<http://www.nps.gov/jela/Preirieacadianculturalcenter.htm>)を運営しています。

ミュージカル音楽とクラシック 米国の音楽ツアーを完結するには、さらに2つのすばらしい音楽ジャンルに触れないわけにはいきません。それは、ミュージカル音楽とクラシックです。クラシックはヨーロッパで生まれましたが、米国生まれのアーロン・コープランドやレナード・バーンスタインといった作曲家が、クラシックのジャンルに生き生きとした米国スタイルを持ち込みました。ニューヨーク市のリンカーンセンター(<http://www.lincolncenter.org/index2.asp>)と長い歴史を持つカーネギーホール(<http://www.carnegiehall.org/jsps/intro.jsp>)は、クラシック音楽を上演する最も有名な劇場ですが、全米の至る所ですばらしいオーケストラの演奏を鑑賞することができます。(<http://www.findaconcert.com/>)

ミュージカル・ファンにとっては、ブロードウェイこそ米国のライブ劇場の殿堂です。ブロードウェイは、ニューヨークで最も有名な通りの名前ですが、劇場のネオンが光る「グレイト・ホワイト・ウェー（偉大な光り輝く道）」としても知られる、12ブロックにわたる劇場街の一角も指します。ブロードウェイのミュージカルは、1年を通じて各地の劇場で再演されています。

楽器 ニューヨーク市のメトロポリタン美術館 (http://www.metmuseum.org/Works_of_Art/department.asp?dep=18)は、珍しい楽器を芸術品として展示しています。ワシントンDCのスミソニアン国立アメリカ歴史博物館には、珍しい装飾付きのストラディバリウスの弦楽器、ピアノ、ハープシコード、ギターなどの楽器や、伝説のジャズ奏者エラ・フィッツジェラルドとデューク・エリントン関連の展示があります。

カリフォルニア州サンディエゴ市に近いカールズバッド市のミュージアム・オブ・メーカー・ミュージック (<http://www.museumofmakingmusic.org>)には、500を超える楽器や、双方向型のオーディオおよびビデオサンプルが展示されています。ロサンゼルス市郊外のコロナにあるフェンダー音楽芸術博物館 (<http://www.fendermuseum.com>)には、50年に及ぶフェンダー社製ギターの歴史に関する展示があります。

グレートプレーンズにあるサウスダコタ州バーミリオン市の国立音楽博物館 (<http://www.usd.edu/smm>)は、750もの楽器を展示しています。

このように、米国のどこを訪れても、米国人は、ジャズであれ、ブルースであれ、カントリーウェスタンであれ、ロックンロールであれ、その他の音楽であれ、「自分たちの」音楽を愛していること、その音楽を米国を訪れる人たちと分かち合おうとしていることが分かるでしょう。米国のあらゆる地域を旅すれば、楽しみながらこの国について学ぶことができます。

参考文献

Bird, Christiane. *The Da Capo Jazz and Blues Lover's Guide to the U.S.* 3rd Ed. New York: Da Capo Press, 2001.

Cheseborough, Steve. *Blues Traveling: The Holy Sites of Delta Blues.* 2nd Ed. Jackson: University Press of Mississippi, 2004.

Clynes, Tom. *Music Festivals from Bach to Blues: A Traveler's Guide.* Canton, MI: Visible Ink Press, 1996.

Dollar, Steve. *Jazz Guide: New York City.* New York: The Little Bookroom, 2003.

Fussell, Fred C. *Blue Ridge Music Trails.* Chapel Hill and London: University of North Carolina Press, 2003.

Knight, Richard. *The Blues Highway: New Orleans to Chicago: A Travel and Music Guide.* Hindhead, Surrey, UK: Trailblazer Publications, 2003.

Millard, Bob. *Music City USA: The Country Music Lover's Travel Guide to Nashville and Tennessee.* New York: Perennial, 1993.

Unterberger, Richie. *Music USA: The Rough Guide.* London: The Rough Guides, 1999.



ジョン・エドワード・ハッセ博士は、音楽史家、ピアニストであるとともに、著述家として賞を受けており、レコードプロデューサーでもあります。現在、スミソニアンの国立アメリカ歴史博物館の米国音楽学芸員。同博物館で、スミソニアン・ジャズ・マスターワークス・オーケストラを結成し、国際ジャズ鑑賞月間を創設しました。著書に *Beyond Category: The Life and Genius of Duke Ellington*、編書に *Jazz: The First Century*があるほか、本とディスク3枚のセット *The Classic Hoagy Carmichael*の著者兼プロデューサーとして、グラミー賞2部門にノミネートされました。米国内および世界各地で、米国音楽についての講演を行っています。

米国の宝

映画やテレビのおかげで、大都市の空をバックに林立するビル群、首都ワシントンD.C.の白い大理石の記念碑、西部の平原や高山がある「カウボーイ」地方、そしてロサンゼルスの魅力伝える丘の中腹にある「Hollywood」の文字など、非常に多くの米国の名所旧跡を世界中の人々が知っているため、実際に米国の土を踏む前から、もう米国がどんなところか知っていると考えても不思議ではありません。

しかし、実際に米国に足を踏み入れた訪問者が目にするのは、独特のすばらしい景色、音、食べ物、そして友好的で暖かな人々に溢れた、非常に多様な国であり、予想していたものとはまったく違う世界です。

AP/WWP Photo by Beth A. Keiser



AP/WWP Photo by Matt York

シカゴのシアーズタワー、グランドキャニオン、ディズニーワールドのような米国の象徴は、もちろん見るだけの価値がありますが、人が行かないような場所にも、貴重な場所や驚くような発見があるでしょう。



AP/WWP Photo by Phelan M. Ebenhack

例えば、ニューヨークを考えたとき、雪の中を「ハンサム・キャブ」と呼ばれる1頭立て2人乗り馬車に乗ってセントラルパークに行く光景が思い浮かびましたか。



AP/WWP Photo by Wally Santana

米国観光の選択肢を広げるヒントとなるような写真を、すでにご存知と思われる場所も含め、ここに集めました。

例えば、米国史に関心があれば、西部のみならず50州の全てで見られる、さまざまなアメリカ先住民フェスティバルに足を向けてはいかがでしょう (<http://www.500nations.com/>)。ここに掲載した写真は、ニューヨークで公演しているタスカローラ・インディアンです。歴史好きの人々は、米国のおちこちで、その土地の戦闘シーンを再現しています。その中でも一番人気があるのは、アメリカ独立戦争(1774-1781年)と南北戦争(1861-1865年)です。ここに写真は載せていませんが、このほかにも、古代に先住民が作った塚から、各時代の歴史的な村々まで、何でもあります。



AP/WWP Photo by April L. Brown



AP/WWP Photo by Seth Perlman



AP/WWP Photo by Danny Johnston

わが国が農業と深く結び付いているのは、夏から秋にかけて州や郡のフェアが数百カ所で開かれているのを見ればはっきり分かります (http://www.expocentral.com/agriculture/us_fairs/US_Fairs.html)。フェアは地元の住民が前年の収穫の成果を見せる機会であり、またトラクター競走、パレード、催し物会場でのアトラクションを楽しむことができます。ここに掲載したのは、イリノイ州フェアでパレードする、装飾を施された雌牛の「アंकルサム」と、アーカンソー州フェアでの催し物会場の乗り物を楽しむ人々です。



AP/WWP Photo by J.D. Pooley

遊園地の乗り物が好きでしたら、世界的に有名なディズニーの他にも多くのテーマパークがあります (<http://themeparks.about.com/od/findusthemeparks/>)。例えばオハイオのシーダーポイント公園には、95メートルの高さまで上がり、時速145キロメートル以上の猛スピードで滑り降りる「ミレニアム・フォース」(写真左下)があります。

博物館がお好きなら、古典芸術をはじめ、海洋生物、縫取り装飾品、西洋文化遺産などあらゆるテーマに的を絞った博物館が全米にあります (<http://icom.museum/vlmp/usa.html>または <http://www.museumlink.com/states.htm>)。ここに掲載した写真は、インディアナ州インディアナポリスにある児童博物館です。

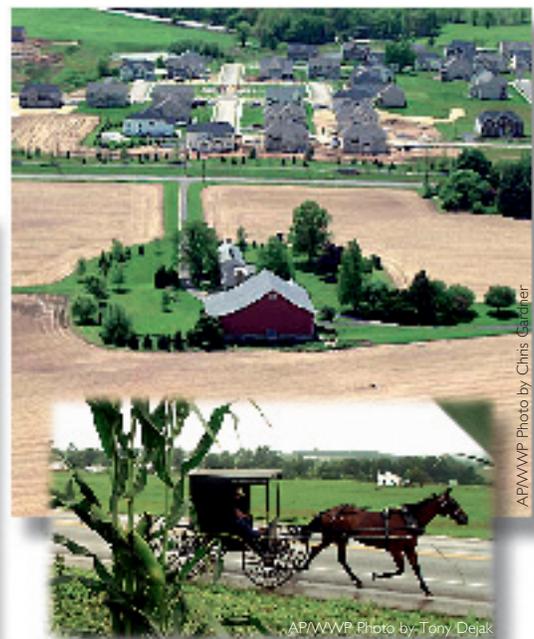


AP/WWP Photo

あるいは、米国のワイナリーを訪ねるのはいかがでしょうか。米国産ワインは次々と国際的な賞を受賞しており、ほとんどの州にも、ツアーを行うブドウ園があります (<http://www.travelenvoy.com/wine/USA.htm>)。左下の写真は、カリフォルニア州にあるロバート・モンダビのブドウ園です。都市から一步外へ出た観光客が、米国の大半があまりにも田舎なのを知って驚くことがよくありますが、それは、田舎を残そうという努力を続けているからです。写真はペンシルベニア州の農園で、同州の農園保護プログラムの一部です。田舎、とりわけペンシルベニア州やオハイオ州を車で走っていると、アーミッシュの幌付き四輪馬車と出会うかもしれません (写真右下)。アーミッシュはドイツ出身の敬虔なキリスト教の一派で、近代的な文化や文明の利器を排し、謙虚さとコミュニティーのメンバーの相互扶助を大切にしています。



AP/WWP Photo by Eric Risberg



AP/WWP Photo by Chris Gardner

AP/WWP Photo by Tony Dejak

米国の個人主義を、しばしばユーモラスな方法で表現することに喜びを感じる米国人もいます。イリノイ州オールトンの「ピザ・ファーム」では、農民が0.5エーカー(約2000平方メートル)の土地をピザのように円く囲って、それをピザの一切れのような形に「スライス」し、その1つ1つにピザの材料を1種類ずつ植えています。



AP/WWP Photo by Tom Gannam



AP/WWP Photo by Mike Gullett

シカゴからロサンゼルスまで斜めに走る伝説のルート66では、アメリカ風物詩とも言える、道端の飾りを今でも見ることができます。ここに掲載した写真では、カンサス州ガレーナ商工会議所の会員が、道路にペンキで道路標識を描いています。ルート66で見べきもの、その他米国の大陸横断道路の旅に関する情報は <http://www.roadtripusa.com/>で入手できます。

本当に型破りなものが好みなら、カーヘンジへの旅はいかがでしょうか。これはストーンヘンジの規模と志向をまねたもので、ネブラスカ州アライアンス近くのカーアート・リザーブの一部です。イギリスのストーンヘンジの米国版は少なくとも他に9つあり、<http://www.roadsideamerica.com/set/OVERhengens.html>によれば、そのうち実際に石できているものは少数で、一部では発泡スチロールや冷蔵庫も使われているそうです。

以上を含む米国の変わり種に関するさらに詳しい情報はエキセントリック・アメリカ：風変わりなアメリカ・ガイドブック (The Brandt Travel Guide to All That's Weird and Wacky in the USA) <http://www.eccentricamerica.com/>の地域ハイライトをチェックしてください。



AP/WWP Photo by David Zalubowski

観戦するにしても、プレーするにしても、米国がスポーツ愛好家の天国であることは言うまでもありません。

アウトドア派には、アラスカの犬ぞり (<http://www.iditarod.com>)や、バージニア州北部のグレートフォールズ公園でのカヤック (写真) のような激しいスポーツもあります。



AP/WWP Photo by Ron Edmonds



AP/WWP Photo by Al Grillo

大学生が「フリスビー・ペーカー」の派手な試合を互いに投げ合って始まったゲームが、フリスビーという競技に発展しました。写真は、ロードアイランド州で開かれた2005年ニューイングランド地域フリスビー・トーナメントでのブラウン大学対ダートマス大学の一戦です。ラク罗斯は何百年も前に、アメリカ先住民から始まり、米国で男女を問わず競技人口が増えているチーム・スポーツです。写真は、2004年パシフィック北西部大学ラク罗斯・リーグ・トーナメントにおけるオレゴン大学対ワシントン大学の試合です。



AP/WWP Photo by Adam Hunger



AP/WWP Photo by John Froschauer



AP/WWP Photo by Jule Jacobson

AP/WWP Photo by Sue Ogrocki

スポーツは好きだけでも、むしろ特別観覧席から観戦したいという向きには、米国のスポーツ・イベントに不足はありません。(写真=右回りに左上から) 毎年1月、世界中の何百万人もの人々が、アメリカンフットボールの王座を決定するスーパーボウルをテレビで観戦します。野球シーズンは毎秋、ナショナル・リーグとアメリカン・リーグの覇者同士が戦って、ワールドシリーズのチャンピオンを決定し、閉幕します。人気のある全米大学体育協会のバスケットボール・トーナメントは「3月の狂気」として知られています。また、フロリダ州で開催された2005年デイトナ500カーレースでは、ストックカー・ドライバーのリッキー・ラッドのピットストップが驚くほど速かったので、観客は大いに興奮しました。全米の各地域では、通年で、アマチュア・スポーツ選手のプレーを観戦する機会があります。



AP/WWP Photo by Bob Jordan

AP/WWP Photo by Mark Humphrey